



LGBT(レズやホモたち)の祭典

レグランド つかぐち 塚口 としこ 淑子

ノルディック出版・代表

ストックホルムでは、今年も8月に恒例の「プライド・フェスティバル」が開催された。そのハイライトは、土曜日の午後に行われるパレードである。

今年はパレードが始まって6年目であるが、参加者は5万人となり、最高記録となった。また、その様子を見に集まった人たちはその10倍の50万人近くであった。衛星都市を含むストックホルムの人口の3分の1が、プライド・パレードを見た計算になる。

普段は、控え目でおとなしいスウェーデン人であるが、この日ばかりは、ありとあらゆる趣向をこらした衣装をつけたり、半裸だったり、ガンガンと鳴り響くロックに合わせて街中を練り歩くのだ。ドラッグショー並みの女装の男性が、それぞれ美を誇っているかたわら、この日のために1年間ジムで鍛えたとかいう臀部を強調したレザーの衣装を着込んだ男性などなど、千差万別。祭りの好きな人には、こたえられない光景である。また、この日は多くの同性同士がおおびらに腕を組み、キスなどしていても誰も目くじらをたてない。

とにかく次から次へと、いろいろなグループが現れ、あっという間にパレードは終わったと感じが、行列の最後列が終着点に達するのに、じつに4時間近くかかっているのだ。

じつはこのパレードには、「面白い、楽しい」以上の意味がある。一組の男女がカップルとなる異性愛が規範となっている社会において、それ以外のオルタナティブな生き方を、集団で提示できる年一回の機会なのである。性的指向の少数派とはいえ、5万の人間が放つエネルギーは強い説得力をもち、見るものにせまってくる。

多くのグループがプラカードなどを掲げて行進するのだが、その内のいくつかが特に印象に残った。ひとつは警官のホモ・レズグループである。この職場は通常、世の中の「規範」から外れた人やグループに対し、排他的であるといわれている。そんな組織の中で働く人たちが、自分たちの性的指向をカミングアウトし、堂々と制服姿で行進するのである。かなり勇気を要する行為で、回りの観衆から拍手喝采を受けていた。

また、家族を持つ者として共感をもったのは、家族内にレズ・ホモ指向者がいる人たちのグループであった。母親らしい女性が娘と肩を寄せ合っで行進する傍ら、「(私は)誇れる叔父」などと、手書きのプラカードを掲げて歩くのは、ごく普通の人たちである。彼らは、身内の性的指向を受け入れるだけではなく、それを世間に向けて公表しているのだ。家族愛と連帯の表現でなくて何であろう。

次に目立ったのは、レズ・ホモ同士カップルの家族、「レインボー家族」の集団であった。数年



前のパレードではあまり目立たなかったのだが、今年には多くの男女が、ベビーカーや、子どもの手をひいて参加していた。スウェーデンではつい最近、異性カップルは医療保険で出来る人工授精が、同性同士にも解禁となったせいもあるかもしれない。平等の観点から、同性カップルは異性のそれと同列扱いになったのだ。現行の婚姻法も、同性同士にも適用できるよう改正案を準備中である。

この同性家族グループの中に、5～6歳くらいの子どもたちが数人、LGBT*（文末の注を参考にしてください）のシンボル、虹の六色旗レインボー・フラッグをそれぞれ手にし、「私たちはレインボー家族の子どもたち！」と無邪気に叫んでいるのを見かけた。お母さんか、お父さんだけが二人ずつという、従来からの「常識」では考えられない、新しい家族の形が着実に育っているのである。のびのびと幸せそうな子どもたちを見て、他人事ながら、あまり周りの無理解にあうこともなく元気に育ってほしいと心から願った。

それにしてもレズやホモたちの行進が、どうして50万人の人たちの関心を惹くのであろうか。私

には、スウェーデン社会が彼らの存在を認め、ひとつのライフスタイルとして受け入れられるまでに成熟したからだと思える。パレードをする者と、路上で見守る人たちの間に、暖かい交流がそこに見られた。2、3年前は、右翼系の若者が行進中の人々に襲いかかったりしたのであるが、今年はそういった気配はすっかり影を潜めていた。どうやらLGBTは、それなりの市民権を得たようだ。

行事には、極保守系のキリスト教同盟を除く6大政党も、毎年きっちりと参加する。大抵、党首が政党グループの先頭に立って行進し、自党がいかに時代の動きに敏感であり、また、少数派の味方であるかを表明するのである。そんな場では、首相でも希望者と一緒に写真に納まったりして、支持者集めに余念がない。そういえば、カミングアウトしている性的指向少数派や、別の少数派である外国出身者を、閣僚に加えるのは最近の政界の傾向である。

来年は、スウェーデンだけではなくヨーロッパ中から参加者が集まるユーロ規模のプライド・パレードになるそうだ。どんなものになるか、いまから楽しみである。

*LGBT（エル・ジー・ビー・ティー）またはGLBTとは、L=レズビアン（女性同性愛者）、G=ゲイ（男性同性愛者）、B=バイセクシュアル（両性愛）、T=トランスジェンダー（従来の性役割観に収まらない考え方や生き方）の頭字語である。LGBTを一口でいえば、「今まで共有されてきた男性/女性という考え方では、自分自身をしっかりと捉えることが出来ない人々」を指している。詳しくはウィキペディア<http://ja.wikipedia.org>を参照。